

課題名 明治時代の日本人がみたヨーロッパの建築と都市  
 —久米邦武の『米欧回覧実記』を資料として—

指導教員 中西章

### 研究の目的

明治に入り日本人は欧米の文物を学ぶためにさまざまな努力をした。建築についても例外ではなく、明治時代を通じて欧米風の建築を建て欧米に劣らない都市をつくるために、欧米のさまざまな建築を取り入れ、建築技術を学んだ。このような明治時代の最初期にヨーロッパを訪れた日本人がヨーロッパの建築と都市をどのようにみていたのかをあきらかにすることを目的とする。

### 研究の方法

明治時代の最初期のヨーロッパ建築に対する日本人の意識をあきらかにするために、1871～1873年の岩倉使節団によるヨーロッパ視察の記録である『米欧回覧実記』をもとに、ヨーロッパのイギリス・フランスの建築・都市についてどのような点に興味を持っていたのかを抽出した上で考察する。この記録は、岩倉使節団の一員である久米邦武が残したものであり、編著者である久米邦武（1839～1931）は天保10年、佐賀に生まれ、維新後に岩倉使節団に参加した。また、実証主義の歴史学者としての立場を貫きながら科学技術への関心をもち、幅広い視野と深い探求心を兼ね備えた学者として知られている。

### 考察

#### ・建築に対する評価について

表1は岩倉使節団が見学した場所および久米邦武が何らかの評価をしていた数を示している。まず、見学場所として多いのは公共施設や工場である。ヨーロッパの社会制度や産業について学ぼうとする目的からこのような見学場所になったもの

のと考えられる。また一方で宮殿や教会など、さらには公園や広場なども積極的に見学しており、欧米建築文化や都市に対する興味があったとみられる。

次に建築的な評価についてみてみると、工場は建築的に評価している数が少なく、工場を建築的に評価しようという姿勢はみられない。これに対し宮殿・教会・城や公園・広場に対して多く評価している。これらの評価は、建築的に良い評価を多くしており、特に宮殿・教会・城などの立派さや豪華さを中心に評価している。しかし、ここで行われている評価は単に「壮麗である」とか「美しい」というもので、ヨーロッパ建築に対する関心はうかがえるもの、これらの建築を日本に取り入れようとする具体的な意図はみられない。

表1

	見学場所の数	評価していた数
宮殿・教会・城	27	18
公園・広場	21	14
公共施設	70	25
工場	61	1
その他	60	28

### ・ 建築技術に対する言及

表 2 は建築的な評価はみられないものの、建築の技術的な部分に言及していたものを示している。トンネルや橋といったものに多く触れていることがわかり、これらは社会の基盤となるインフラストラクチュアである。このことから久米邦武はヨーロッパのインフラストラクチュアに興味を持ち、それを実現している建築技術についてもある程度の興味を持っていたと考えられる。また、建築の材料としては、鉄などの新しい材料、石材や煉瓦などのヨーロッパ風の材料などに言及している部分が多い。しかし、これらの記述はさまざまな工場を見学した際に

みられる詳細な生産過程の記述に比べるとたいへん簡単なものである。したがって都市のインフラストラクチャーや建築技術に対してはある程度の興味は持っているものの、それを具体的に学ぼうという段階にはまだ至っていないと考えられる。

なお、クリスタルパレス（イギリス）は当時としては最新の材料である鉄とガラスで建てられた建築である。しかし、このクリスタルパレスに対してもガラス張りの鉄骨構造であるという部分に少し触れているだけで、あまり詳しく記されてはいなかった。

### まとめ

ヨーロッパの宮殿・教会・城といった豪華な建築の立派さや壮麗さを中心に評価をしているが、これらの建築を具体的に日本へ取り入れようとする意図はまだあまりみられていない。また、建築的な評価はしていなかったが、技術的な方向からインフラストラクチュアに対する興味を示している。

全体としてヨーロッパ建築・都市を日本へ取り入れようとする姿勢はあまりみられない。しかし、その後の日本では文明開化、殖産興業を中心に西洋の文化や技術を取り入れたり産業の発達という近代化をむかえたが、建築もそのなかで大きな役割を果たした。この岩倉使節団のヨーロッパの建築・都市に対する見聞がそのような日本の発展に繋がったように思われる。

### 参考文献

- ・ 久米邦武編著（水澤周 訳注）『米欧回覧実記 2 巻、3 巻』 慶應義塾大学出版、2005 年
- ・ [http://www.kume-museum.com/corner\\_kuni\\_profile.html](http://www.kume-museum.com/corner_kuni_profile.html)

表 2

材料	材料を使用している箇所			
鉄	鉄道橋の柱	クリスタルパレス（鉄骨構造）	橋	
石材	鉄道橋・教会のアーチ	地下鉄のトンネル	ベルロック灯台の基礎	凱旋門
ガラス	クリスタルパレス			
煉瓦	地下鉄のトンネル	海底トンネル	フォンテーヌブロー宮殿の外壁	
タイル	銀行の壁	歩道		
木	橋	兵舎		
セメント	下水のトンネル			